

リサの怒り 【高学年４ - (2)】

- 総合的な学習の時間の体験を生かして -

- (1) 主題名 町をきれいに [4 - (2)] 関連項目 [4 - (4)]
 (2) ねらい 公德心をもって、法やきまりを守るとともに、自分の役割を果たそうとする態度を育てる。
 (3) 資料名 「リサの怒り」
 (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 総合的な学習で行った地域のクリーン活動を思い出し、感想を聞き合う。	みんなでクリーン活動をして、どうだったか。思ったことなどを聞かせてください。 ・たくさんゴミがあって、驚いた。 ・掃除をしてきれいになったので、きもちがよかった。 ・しんどかった。	活動をしているときの写真などを掲示し、想起させる。
展 開	2 資料「リサの怒り」を読んで話し合う。 3 自分の生活を振り返る。	リサはだんだんと腹が立ってきて、とうとう何と言ったでしょう。書き込んでみましょう。 ・いいかげんにしてよ。このままでいいと思っているの。 こうやってクリーン活動することは、本当に無駄ではないのでしょうか。 ・無駄ではない。やっている姿をみて、ゴミを捨ててはいけないと思ってくれる人がでてくれる。 ・いくらやったってまた捨てられるのだったら、無駄かな。 リサもみんなと同じように、いろいろ考えたみたいです。次の日の朝の会です。リサが手を挙げて何か言っています。なんとやっているでしょう。 ・いくらやったってゴミを捨てる人がいれば、またたまるから無駄かもしれないけど、自分たちの町だからきれいにしていこうよ。わたしたちだけでもゴミを捨てないようにしていこうよ。	資料の「 」の中にリサの言葉を書き込み、発表させる。 議論の中で、理由付けをきちんとさせる。また、無駄ではないという考えに対して、「いつまでこの活動を続けたいのかな。」と、揺さぶりをかけることも必要である。 ワークシートに書き込み、発表させる。
終 末	4 地域で奉仕活動をしておられる方の話を聞く。	住みよい町にしていこうと、活動しておられる さんが、今日は来てくださっています。どんな思いですって活動が続けられているのか、聞きましょう。	児童の意欲を高める話をし、いただくために、事前の打ち合わせを十分にしておく。

リサの怒り

今日は、総合的な学習で学区内の公園掃除をする日だ。かねてから、リサたちのグループが、自分たちの住んでいる町をきれいにしようと計画をたて、五年生全体ですることになったのだ。

しかし、リサにはひとつ気がかりなことがあった。それは、三日前の日曜日に地域の奉仕活動でクリーン作戦が行われ、たくさんの人が町内の掃除をしたばかりだったからだ。リサも母と一緒にクリーン作戦に参加し、町の人たちのマナーの悪さに驚き、たくさんのごみを集めて回ったばかりなのである。

あれから三日、公園はきれいなままだろうか。それともまたゴミがいっぱいすててあるのだろうか。期待と不安をもちながらリサたちは、軍手をはめゴミ袋をもって出発した。学区内の公園は、六つある。リサたちの担当の公園は、いつも同じクラスの男子たちが休みの日によく遊んでいる公園だ。

（ゴミが捨ててありませんように・・・）
と、祈るような気持ちで公園までの道を歩いた。

残念ながら、リサの祈りもむなしく公園の水道の回りには、水風船のざんがいがいっぱい散らかっている。植え込みの中にはジュースの缶や、お菓子の袋、まだおかずの残ったコンビニ弁当の入ったビニル袋。犬のふんはあちこちに散乱している。

「ああ、なんで？ この前掃除したばかりなのに・・・」

初夏の暑い日差しの中、リサたちは一生懸命分別しながらゴミを集めた。ふと気がつくと男子たちの姿が見えない。どこへ行ったのかと周りを見回すと、なんと水道のところで水かけ合いをして遊んでいる。良夫にいたっては、木陰のベンチに寝そべって拾ったマンガを読んでいる。

「もう、ちゃんとゴミを拾ってよ。こんなにたくさんあるのよ。」

とリサと祐子が大声で言うつと、男子たちは

「はいはい、わかりました。」

と、しぶしぶ反対側の植え込みの方に肩を組んで歩いていった。

終了の時間になったので、ゴミをまとめて学校に帰ることになった。帰りながらリサは（他の公園はどうだったのだろうか。わたしたちのところと同じようにいっぱいゴミがあったのだろうか。）

と不安になった。

学校に帰ってみると、なんと他の公園もたくさんのごみ。こわれた自転車や、ストープもある。

「地域の掃除があると聞くと、前の日にわざと大型ゴミを捨てる人もいるそうよ。」

と、となりにいた祐子が言った。

（わたしたちの町の人って・・・。）

今日の活動のまとめの言葉を言わなければならないリサは、こんなことでくじけちゃいけないと思い、

「今日は、とても暑い中ご苦労様でした。これでわたしたちの町もきれいになりました。

この次の掃除は、来月の十七日です。また、がんばりましょう。」

と言った。すると、

「ええ、また来月もやるんか？ やめようやあ。いくらやったってまたゴミがいっぱいたまるんじゃないか。無駄なことは、やめましょう。」

と、良夫が言った。さつき水遊びをしていた男子たちも

「そうだ、そうだ。」

と、声をそろえてはやしたてた。

「きたないから、みんなで掃除するんですよ。しなかったらわたしたちの町はゴミの町になっちゃいます。」

「じゃあおれたちは、人が捨てたゴミをいつまでもこうやって拾い続けるわけ。」

「ちょっと待って、それはおかしいんじゃない？ あの公園に捨ててあった水風船のざんがい、誰が捨てたか、わたし知ってるわよ。」

と、祐子が口をはさむと、何人かの男子は真っ赤な顔をして下を向いた。でも、

「いいじゃないか、どうせ誰かが掃除してくれるんだから。別にどうってことないじゃん。」

と、良夫は平気な顔をして言った。

リサは、だんだんと腹がたってきた。そしてとうとう

「

」。

と、叫んでしまった。

活用に生かすための実践報告

「リサの怒り」

1 主題の設定

規範意識、公德心については様々な理由によって、今日では低下している状況にあると言ってもよいであろう。子どもたちを取り巻く環境や社会情勢が変わっていくとともに、子どもたちも変わってきている。特に善悪の判断や約束やきまりを守るといった規範意識の低下にともない、集団の一員としての自覚をもって行動するという公德心も十分に育っていない。高学年ともなると、資料を使っただけの道徳の授業では環境問題とも関連させながら、とてもすばらしい意見や、考えを述べる。しかし、実生活の場においては、落ちていたゴミ一つ自ら進んで拾おうとしない。また、見て見ぬふりをする人が多い。みんなが社会の一員として公德心を持って生活していかなければならない。そのみんなの中には、自分が入っていないのである。自分以外のみんながそうすればよいという意識。あるいは、分かっているけどいざ行為になると抵抗感があり、一歩が踏み出せないという状況でとどまってしまうのだろうか。

そこで、まず変わらなければならないのは他の人ではなく自分であることを自覚させ、身近なところに献身的に奉仕活動をしておられる人がいることにも気付かせたい。

2 指導過程の工夫

できれば、この道徳の授業の前に総合的な学習の時間に地域の清掃活動などを体験しておく、とても効果的である。また、体験がない場合は、地域の公園などのゴミが散乱している写真やビデオを見せる方法もある。

展開では、無駄なことが無駄ではないかについて、本音を出し合いながらしっかり議論させることによって、自分自身の意識と行為が現状を変えていくことに気付く。

終末では、ゲストティチャーを招くことが効果的であると思うが、難しい場合は、事前に奉仕活動をしておられる方にインタビューしたビ

デオを見せたり、実際に活動しておられるところをビデオに撮っておき、見せる方法もあるだろう。また、校長先生に終末の話をお願いするのも、効果がある。

3 発問の工夫

展開の「無駄であるか、無駄ではないか」についての議論の中で、教師側が揺さぶりをかけることが必要である。無駄ではないという考えにクラスが流れ始めたら、「じゃあ 私たちも含めて、いつまでこんなクリーン活動を続けていくの?」と。無駄だという方に流れ始めたら、「みんながそう考えてクリーン活動をしなくなったら町はどんなふうになるだろう。」と。そうすることによって、子どもたちは根本的な問題点に気付き始める。

4 児童の反応（授業後の感想）

（ワークシートより）

- ・みんな、町をきれいにしたい気持ちがちょっとでもあるのだから、協力して私たちの町をきれいにしていこう。
- ・クリーン作戦が無駄だと言われてとても悲しかったです。町が汚くなってもいいんですけど、ゴミは持って帰ってください。また、拾ってください。
- ・どうせゴミが出るけど、みんなでがんばっていたらゴミが絶対になくなるよ。だからみんながんばろう。

5 実践者からの一言

公德心の問題については、子どもだけでなく私たち大人に大きな責任があると思う。そして、とても耳の痛い話で、分かっているけどつい・・・、という本音の部分を見せて議論できない。教師も子どもも同じという気持ちを持って授業に当たり、授業後は一緒になって互いに評価し合いながら行為として実践していくことが大切である。きっと教師と子どもたちの距離も縮まり、信頼関係も深まるであろう。

（東浄小学校 川手香苗）